



日本統計学会 会報 2022.4.30

No.
191

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax: 03-3234-7738
編集責任—大森 裕浩 (理事長) / 加藤 昇吾 (庶務理事)
中島 上智 (広報理事) / 城田 慎一郎 (広報委員)
高橋 慎 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：学会における多様性…… 南美穂子… 1 | 6. 理事会・委員会報告 (2022年2月10日開催) …10 |
| 2. 2022年度統計関連学会連合大会のお知らせ
(第二報) … 飯塚誠也・小森 理・黒田正博… 3 | 7. 社員懇談会報告…………… 12 |
| 3. 第16回日本統計学会春季集会の報告
…………… 大森裕浩・吉羽要直・中妻照雄… 4 | 8. 博士論文・修士論文の紹介…………… 13 |
| 4. 2021年11月統計検定 PBT 方式試験の成績優秀者
…………… 樋口知之・大森裕浩… 7 | 9. 新刊紹介…………… 16 |
| 5. 統計検定合格者の声…… 樋口知之・大森裕浩… 7 | 10. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報… 17 |
| | 11. 学会事務局から…………… 17 |
| | 12. 投稿のお願い…………… 18 |

1. 学会における多様性

南 美穂子 (慶應義塾大学)

この4月に日本統計学会に多様性推進特別委員会が発足し、委員長を務めさせていただくことになった。近年、多様性という言葉が多くの場面で語られ、その重要性や価値が認識されるようになってきたが、その重要性を認識しているつもりでも実際には多様性を阻む状況に気付いていないことがある。本委員会は、性別、年齢、職業、国籍、価値観などの多様性を尊重した学会活動を推進することを目的とする。この目的に関して異論はあまりないだろう。しかし、多様性に関する現状や多様性を阻む原因、多様性を推進する方法などに関しては、個々の属性や経験によって見解が異なるかもしれない。また、日本統計学会における多様性を個々の研究者がどのように捉えるかは、日本統計学会が主に研究対象とする統計学をどのように認識するかにも依存するだろう。

私の経験を少し書かせていただきたい。私は、お茶の水女子大学で数学を専攻して1982年に卒業

後、企業で約6年働いてから海外の大学院に入り、帰国1年後に東京理科大学で助手になった。その後統計数理研究所に10年間勤めてから現在の所属大学に移った。お茶の水女子大学を選んだのは、単に自宅から通えて学費が安く受験科目が少ないという理由からだけだが、女子大でなければ数学科には女子は1人か2人と聞いていたので、選択は男子ばかりの中に入るか、女子だけかのどちらかだった。この状況は残念ながら現在もさほど変わっていないように思う。学部卒業後にシステムエンジニアとして就職したコンピュータ会社では経営科学課に配属された。最初に担当することになったのは様々な分布の密度関数/分布関数/分位点関数、段階的回帰モデル、Census X10などの100余りの統計 Fortran サブルーチンのパッケージで、私が統計学と関わるきっかけとなった。しばらくすると部長に同行して顧客企業を訪問することが増えたが、女性社員に与えられている役割は

企業によって顕著に差があって、女性が専門的な業務で他社を訪問することに驚かれることもあり、「世の中とはこういうもの」という個々の概念は案外狭い範囲内で形成されるものなのだと思います。

恵まれた職場だったのだが、統計学を体系的にもっと深く理解したいという思いが次第に強くなっていった。そのような時にカリフォルニア大学サンディエゴ校では大学院生であれば日本語 TA として生活が賄え、統計学の著名な研究者もいるということを知り、数学科のマスターコースに入学した。数学科には他に日本人はおらず、拙い英語で情けない思いもたくさんしたが、疎外感を感じることはあまりなかった。それは、様々な国からの留学生がおり、学生の年齢や経歴もばらばらで違いをほとんど気にしないこと、また、属性における多数派が強いコミュニティを形成しておらず、それぞれの個が確立していることなど、まさに多様性の恩恵であったと思う。その後、コースを移り Ph.D. を取得して日本に帰国し、以降は前述の通りで、現在は、理工学部数理科学科で主に統計学専攻の科目を担当し、教育・研究に従事している。大学卒業時には想像もしなかった職を得ていることをとても有難く思っているが、昨今のデータサイエンスブームに「もし会社を辞めなければ、どのような仕事をしていたろうか」と思いを巡らすこともある。

多様性推進特別委員会の話に戻ろう。この委員会を発足させることになった発端は、ここしばらく理事会に女性がおらず、各種委員会の委員も女性のごく少数であることが昨年9月に開催された役員・代議員協議会で話題に上ったことにある。女性会員に打診して断られたこともあったそうだが、それでも会員に占める女性割合が約9%であることから考えるとかなり少ない人数である。この状況について学会活動特別委員会ですらに議論したところ、理事会には女性が少ないだけではなく企業の方の参加もないことを問題視する意見が出された。そこで、理事会を含む学会活動全般における多様性の推進を目的に多様性推進特別委員会を設置し、男女共同参画学協会連絡会にもオブ

ザーバー加盟することとなった。男女共同参画学協会連絡会への加盟は、他の学協会と連携協力を行い、女性研究者・技術者を育む土壌や人材育成に関する情報交換や大規模アンケートによって定期的に実態を把握し問題点を意識する機会を得るためである。

発端となった問題について考えよう。学会の仕事はすべてボランティアであり、理事や委員は担当によっては定常的に仕事があり仕事量も多い。理事や委員の皆様には感謝申し上げたい。学会の仕事は研究活動にプラスになる面も多々あり、意見を学会運営に反映させる機会を得ることができるが、係る負担を考えると、理事や委員の就任を依頼しやすい範囲は狭くなってしまい、それが偏りを生じてしまうことの原因の一つなのかもしれない。しかし、メンバーの属性が偏っていることは、社会の変化に柔軟に対応するために必要な多角的な視点と発想を得ることにはマイナスに働き、組織としての成長を鈍化させる危険をはらむ。そしてまた、理事会や委員のメンバー構成の偏りは学会内外に思いがけないほど強い負のメッセージを持つこともあり、学会への参加意欲にも大きく影響することが懸念される。多様性の推進のためには、まず、多様性の価値や重要性を理解して、たとえ手間やコストが余計にかかるとしてもそれは必要なものであるとの共通認識を持つことが重要ではないだろうか。ただし、ここで一点書き添えておきたいが、多様性を確保するためにと強いプレッシャーがかかり、特定の個人に無理を背負わせることはないようにとも思う。個の多様性の尊重も組織や社会全体の繁栄には必要不可欠である。

多様性推進特別委員会には、女性統計家・データサイエンティスト育成分科会主査を務める小野陽子氏、国際統計協会 Women in Statistics 運営委員の渡辺美智子氏にも委員として参加いただいております。それぞれの活動とも協調して、また、理事会にもご協力いただいで議論をしながら多様性推進の活動を進めていく予定である。

2. 2022年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

運営委員長 飯塚 誠也（岡山大学）

実行委員長 小森 理（成蹊大学）

プログラム委員長 黒田 正博（岡山理科大学）

2022年度統計関連学会連合大会（成蹊大学で開催予定）について進捗をご報告申し上げます。第一報では、開催方式を検討中とアナウンスさせていただきましたが、「ハイブリッド方式（現地参加と、オンライン会議ツールによるオンライン参加）での開催」として準備を進めています。

初日9月4日（日）はチュートリアルセッションと市民講演会、2日目以降（9月5日（月）～8日（木））は一般講演や企画セッションなどを開催いたします。開催に当たっては厳重なコロナウイルス感染対策を実施します。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、完全オンライン開催になる場合もございます。この点をご承知おきください。

この第二報では併せて、企画セッションの公募をご案内いたします。今後、連合大会のホームページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2022/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。トップページは3月下旬に公開予定です。

1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しています。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

企画セッションに関しては、今回もこれまで通り公募します。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画等のご提案を歓迎します。なお、応募が多数の場合にはプログラ

ム委員会で調整させていただくこともありますので、ご了承ください。

企画セッションの申込に際しては、

1) セッションのテーマとねらい

2) オーガナイザーの氏名・所属・連絡先

3) 座長の氏名・所属

4) 予定講演者の氏名・所属・演題名・使用予定言語（日本語または英語）

を上記連合大会ホームページからリンクされているフォームにてお申し込みください（メールによる申し込みは受け付けておりませんのでご注意ください）。

企画セッション1件あたりの時間枠は120分を予定しています。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切

2022年4月4日（月）17:00（厳守）

企画セッション担当者

kikaku2022 (at) jfssa.jp (at) を@に置き換えてください。

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2022年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、コンペティション対象者は、講演申

込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（入会申請中）でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分ご注意ください。コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります。審査は、講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

なお、今回のコンペティションセッションは、昨年と同様にオンラインで行います。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月4日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、ソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、2022年5月上旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします。

2.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や事前参加の申込、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締切を2022年6月上旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します。確定した期日や具体的な企画は、第三報でお知らせいたします。

3. 第16回日本統計学会春季集会の報告

大森 裕浩（日本統計学会理事長）
吉羽 要直（企画・行事委員長）
中妻 照雄（実行委員長）

第16回日本統計学会春季集会が2022年3月5日（土）に慶應義塾大学三田キャンパスにて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催されました。第13回春季集会以来の3年ぶりの対面での集会が実現しました。今回の集会では、招待講演による4つの企画セッションと1つの基調講演、そしてポスターセッションが企画され、活発な議論が交わされました。

午前は、第1校舎2階121教室にて、開会式の後、2階の2つの会場に分かれ、2セッションが並行して実施されました。121教室では、共催校による「モデリング研究の展開と実践（オーガナイザー：椿広計氏、統計数理研究所）」、123教室では「高次元データのための統計解析理論（オーガナイザー：柳原宏和氏、広島大学）」がそれぞれ実施されました。

ポスターセッションは、昼休みのコアタイムを第1部、第2部に分けて、現地とオンラインの各会場で別々に開催され、学部生、大学院生、若手研究者を中心として現地16件、オンライン18件の計34件の発表がありました。コアタイムでは、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。

午後は、同じく第1校舎2階の2つの会場にて2セッションが並行して実施されました。121教室では、開催校による「オルタナティブデータによる統計分析の展望と課題（オーガナイザー：中妻照雄、慶應義塾大学）」、123教室では「VUCA時代の価値創造—多様性からみるDS人材育成（オーガナイザー：小野陽子氏、横浜市立大学）」がそれぞれ実施されました。

その後、オーストリアから遠隔にて参加された

Sylvia Frühwirth-Schnatter 氏 (Vienna University of Economics and Business) による基調講演が菅澤翔之助氏 (東京大学), 各務和彦氏 (名古屋市立大) のオーガナイズのもとで, 121教室とオンラインのハイブリッドで行われました。

最後に, ポスターセッション表彰式と閉会式が行われました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は郡山拓也氏 (東京大学), 中村咲太氏 (早稲田大学大学院) の2名に, 学生優秀発表賞は澤谷一磨氏 (東北大学), 下野祐太氏 (京都大学), 田坂理英子氏 (大阪大学大学院) の3名に授与され, 樋口知之会長より表彰されました (氏名は五十音順)。また, 川崎茂氏 (一般財団法人統計質保証推進協会統計検定センター長) より, 優秀発表賞と学生優秀発表賞の受賞者に対して統計検定センター長賞を贈呈していただきました。なお, 今年の春季集会の参加者は現地参加 (現地受付ベース) 77名, オンライン参加・講演者 (現地参加を除く事前参加登録ベース) 164名の計241名でした。

春季集会はオーガナイザーの先生方にセッションを企画して頂いています。並行して開催するセッションの数が少なく, じっくりと研究発表を聞くことができるのが, 春季集会の特徴です。また若い世代の研究者に積極的にポスター発表をしていただきました。今回は現地とオンラインとそれぞれでのリアルタイムでの開催となりました。今回の春季集会も多く発表者と参加者に恵まれ, 盛会のうちに終了することができました。最後に, 本集会を成功裏に導いてくださった方々に感謝申し上げます。

春季集会 URL :

<https://confit.atlas.jp/tjss2022spring>

ポスターセッション優秀発表賞

受賞のことは

郡山 拓也 (東京大学)

この度は優秀発表賞という名誉ある賞を頂き, 誠にありがとうございました。



ポスターセッション優秀発表賞の授賞式の様子: 左より, 大森裕浩理事長, 郡山拓也氏, 中村咲太氏, 樋口知之会長

研究指導をしてくださった駒本文保先生と松田孟留先生に感謝いたします。初めての対面発表だったのですが, 審査員の先生方が熱心に発表を聞いてくださったおかげで, 刺激的な一日になりました。

本発表では Ewens–Pitman 分割のパラメータの最尤推定量の一致性と漸近混合性正規性を導出し, 検定への応用について紹介しました。

この Ewens–Pitman 分割は, 確率過程として美しい性質を持ちつつ, ノンパラベイズやネットワーク統計, 生態学などの応用分野で現れます。実際, 今回の Frühwirth-Schnatter 先生の基調講演の中でも出てきました。今後はこうした分野への応用を視野に入れながら, 確率論を幅広く勉強していきたいと思います。

受賞のことは

中村 咲太 (早稲田大学大学院)

この度は, ポスターセッションにおいて優秀発表賞という栄誉ある賞を頂き, 大変光栄に存じます。コロナ禍という特殊な状況下において, 発表形式の決定には大変頭を抱えたことかと存じますが, ハイブリッド形式にて現地・オンライン発表のどちらでも参加・発表のしやすい環境を整えて下さった関係者の皆様, 審査に携わられた先生方に厚くお礼を申し上げます。本発表では, 非整数ブラウン運動で駆動される確率微分方程式のドリフトパラメータの, 高頻度観測に基づく最小二乗推定量による推定法についてご報告をさせて頂き

ました。研究に際し、指導教官の清水泰隆先生には日頃から親身な指導をして頂きました。また、共著者である弊研究室助手の中島翔平氏には多くの的確なご助言を頂きました。この場を借りて、お二人に深く感謝を申し上げます。今後も今回の受賞を励みにして、より一層研究活動に邁進して参りたいと思います。

ポスターセッション学生優秀発表賞

受賞のことは

澤谷 一磨 (東北大学)

この度は学生優秀発表賞を頂戴し、大変光栄に思います。現地開催とオンラインとの併用という柔軟な環境で学会の運営及び審査をして頂いた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。また、いつも丁寧にご指導を頂いている植松良公先生にもこの場をお借りして厚く御礼申し上げたいと思います。

本報告では、近年活発に研究されている、高次元変数選択における第一種の過誤の指標である偽発見率を漸近的に指定水準以下に制御する方法に対して、コーシー分布などの裾の重い誤差分布へのロバスト性を備えた新たな手法を提案いたしました。報告に際して活発なご意見、ご質問を頂きましたことを大変ありがたく存じております。今回の受賞を励みに、更に良い研究ができるよう一層精進してまいります。

受賞のことは

下野 祐太 (京都大学)

この度は学生優秀発表賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。新型コロナウイルス蔓延の影響により、ハイブリッドという難しい形式にも関わらず、本大会の開催にご尽力頂いた関係

者の皆様、及び審査をして頂いた先生方に厚くお礼を申し上げます。貴重な発表の機会を頂いたと同時に、大変興味深い発表をいくつも聴講することができ、大変刺激を受けました。

今回私は従来のモンテカルロシミュレーションに、最新の深層強化学習を組み込んだ新たな手法である「MetaQNet」を提案し、その有効性に関してご報告致しました。研究をすすめる中で様々な課題に直面しましたが、そのたびに適切なアドバイスを示し熱心にご指導して下さった馬淵先生に、この場を借りて心より感謝申し上げます。これからも日々の研究に精進し、素晴らしい発表ができるよう、より一層邁進してまいります。

受賞のことは

田坂 理英子 (大阪大学大学院)

この度、日本統計学会春季大会学生優秀発表賞という栄誉ある賞をいただき大変光栄に思います。コロナ禍においても大会を開催し、研究発表のための貴重な場を設けてくださいました運営の皆様、そしてお忙しい中審査をしていただいた先生方に心より感謝を申し上げます。また、このような賞をいただけたのは、日頃よりご指導いただいております鈴木讓先生をはじめ、研究室の皆様のご助力あってのことです。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本発表では、Lasso に対して提案されていた Spacing Test という選択後の推測 (Post-Selection Inference) を Fused Lasso および Trend Filtering に拡張することで、これらの適切なモデルが検定により決定可能となることを報告しました。多くのご質問・ご意見をいただき、嬉しく思うとともに、これを励みにより今後の研究を発展させて参りたいと思います。

4. 2021年11月統計検定 PBT 方式試験の成績優秀者

樋口 知之（日本統計学会会長）

大森 裕浩（日本統計学会理事長）

2021年11月21日に統計検定が行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：稲場俊弥，尾形一穂，川原田明德，坂本啓太朗，谷川達紀，徳備隆太，福島博文，堀部公希，前田裕匡，松井直樹，松井涼一郎，南元篤史，柳泉穂，柳田真輝

優秀成績賞（A）：相田航，井汲景太，植村直紀，角淳之介，小島涼介，小柳雄大，笹岡聖也，佐野航，菅乾道，菅波修司，竹内峻平，武信弘一郎，田中卓磨，中澤世阿，中村孝志，西岡寿朗，濱崎大範，濱本敬大，東託也，平出託海，藤野純平，松崎紫音，水越明哉，宮本一慶，森本恒平

1級「統計応用」

最優秀成績賞（S）：伊藤佑，稲場俊弥，川原田明德，菅乾道，菅波修司，鈴木陽太，平松祐紀，向田裕人，森本恒平，若井大成

優秀成績賞（A）：赤澤祥貴，上野智久，大熊孝広，大隣嵩，大和田隆太朗，小島涼介，佐野航，杉谷健太，高橋良希，竹内峻平，寺西佑太，中村孝志，西野悠久，濱本敬大，福井友寛，藤井達也，松井涼一郎，見勢淳，南元篤史，山田晃平，吉住宗朔，吉田航

統計調査士

最優秀成績賞（S）：鈴木貴士

優秀成績賞（A）：秋山利隆，末永知晃，園田泰造，多田昌史，鳥形卓也，松岡徹

専門統計調査士

優秀成績賞（A）：福島駿，宮崎悠二

5. 統計検定合格者の声

樋口 知之（日本統計学会会長）

大森 裕浩（日本統計学会理事長）

統計検定（2021年6月20日，2021年11月21日実施）の合格者よりいただいた声を掲載します。

1級「統計応用」

小島 涼介さん（会社員）

「ソーシャルゲームにおける統計学活用を目指して」

私はソーシャルゲームの運営業務に従事しています。ソーシャルゲームとは、スマートフォンアプリとして配信されるゲームです。ゲーム内コン

テンツが毎日のようにリアルタイムで更新され、ユーザーは場所も時間も問わず日常的にプレイすることが最大の特徴です。よって、24時間365日世界中のスマートフォン端末から無数のログがサーバー上に記録され、その中には課金履歴はもちろん操作内容や画面遷移に至るまでの膨大な情報が含まれています。スピーディーな運営の中でクオリティの高いコンテンツを制作し続けるためには、大量の情報を素早く整理して解釈し、的確な意思決定に繋げていく必要があります。

こうした業務をより良く遂行するために必要な知識を得る機会として、統計検定を受験しました。もともと理系の出身であるため解析学や線形代数の基礎的な数学の知識はありましたが、統計学特有の概念や思考法は新鮮で学び甲斐のあるものでした。とりわけ検定や分散分析はその最たるものと言えます。というのも、単に手元のデータから平均や分散を算出する記述統計的な分析だけでは、過去のデータの特徴がわかるだけで、これから行うべき施策の有効性を検討するには十分ではないからです。データの背後にある確率変数という概念を正しく理解し、それをういた検定や分散分析を行って初めて未知のデータに対しても有効な意思決定が可能になります。

日々生成される膨大なゲームログから、「結局ユーザーは何をしているのか」、「結局どんな施策が求められているのか」といった本質的なメッセージを汲み取り、ユーザーに良質なコンテンツを届けられることはまさしく統計学の成果です。情報技術が発展した現代においては、ゲームのような娯楽領域においても統計学の深い知識を持つことは極めて有益であり、様々な分野で統計学を実践的に活かす機会があると確信しています。

1級「統計数理」

竹内 峻平さん（東京大学理学部生物学科）

「統計学の体系的な理解に向けて」

大学の書籍部を歩いていたときに過去問集を見かけて、統計検定の存在を知りました。4月頃に、6月に2級を受けて11月に1級を受けることを決めたとします。

2級を受けた直後ということもあり、統計の基本的な概念（期待値や仮説検定）や確率分布（正規分布やポアソン分布）は把握していました。一方で、ややマイナーな確率分布（超幾何分布やベータ分布）や詳しい数学的手法（デルタ法など）については知らなかったです。1級に向けての勉強を始めたのは10月中旬で、1ヶ月ほどで集中的に勉強しました。参考書は「現代数理統計学の基礎」（久保川達也）を主に使って、この一冊を完

璧にする方針としました。非常に良い本だったので、本文と演習でほとんどの範囲をカバーできましたが、たまにわからない点があったときは「現代数理統計学」（竹村彰通）や公式の参考書を参照しました。

学習する際に意識したことは、内容に有機的なつながりを持たせて理解することです。そのためには、頭に思い浮かんだイメージを言葉で最後まできちんと書き留めることが大切だと思います。勉強しているとき、いま解いた問題はさっき解いた問題と方針が似ているなど感じたり、この定理をこんな風に使うということは自分の理解と少しずれているなど感じたりすることがあると思います。そうした類似性や違和感を逃さず、最後まで言語化して吟味します。吟味する際にはどうしても、定理の基礎的なところまで辿る必要があり、また他の問題でどのように利用されているか広く見る必要があるので、着実に理解を深められると思います。

今後も数理統計の学習は継続しつつ、その知見を研究にも活かせるよう努力します。

準1級

小林 祐太さん（医師）

「医学論文を読み解くためと今後の医療現場を見据えて」

耳鼻咽喉科医師をしています。今回、統計検定を受けることについて、私の中では2つのモチベーションがありました。

- ①医学論文を読み解くうえで、得られたデータに対する解釈の妥当性や限界について正しく評価するためには統計学の知識が必須である
- ②AIなど機械学習が社会のあらゆる領域へ進出するなかで、医療現場もその例外では無いにも関わらず、機械学習の基礎理論や限界につき学ぶ機会がこれまでに全くなかった

我々医師にとって、恥ずかしながら統計学、もとい基盤となる数学については、腰を据えて学んだ経験がないことがほとんどです（学生時代の過ごし方は人それぞれであり、ひよっとしたら私だ

けなのかもしれませんが…。まして機械学習などは、学ぶという選択肢すら、全く頭にありませんでした。

医学的エビデンスを参照するとき、原著論文ではなく教科書や医学雑誌、ガイドラインをまず参照することがほとんどです。しかし、ときに原著論文を読み解く必要が生じ、そこでほとんどの医師にとって敷居が高くなるのが言語の壁、そして統計学的に適切な解釈ではないかと思えます。

くわえて今後、機械学習が発展するに伴い、医療現場における診断、治療方針の決定、さらに将来は手術に至るまで機械化が進むことは間違いありません。それは、人間が行ってきたあらゆる「判断」を機械に任せて正確化・均一化できる一方で、その原理をおよそ理解できていない限り、医師が医療現場に参加できる余地が無くなっていくことも意味しています。それを見据えて私が今からできること、それは統計学を基礎から学び直すことだという結論に至ったのです。

統計検定の受験は、統計学を系統立てて学ぶのに大変良い機会となりました。等級に合わせて徐々にレベルアップでき、不足する知識も明確に浮き彫りとなるため、学ぶべきテーマに迷わず進めていくことができました。ぜひ1級合格まで目指したいと思えます。

2級

真壁 孝嘉さん (IT エンジニア)

「統計検定で身についたデータを見る力」

今年から機械学習やデータ分析を業務で行うようになったこともあり、データ分析に関する基礎力を身に付けようと思ったこと、それが統計検定を受験したキッカケです。現場では機械学習やディープラーニングに関するフレームワークを使って、モデルを作ったり、データ分析を行ったりしていますが、理論の部分からしっかりと理解出来ているかと言えば怪しい部分も多々ありました。既成のフレームワークを利用して、何となくプログラミングを書けばそれらしい結果が返ってくる、そういった作業が中心になりがちでした。

そう言った状況を打破するためにも、機械学習や統計に関する数学をもう一度基礎から見直そうと思い、まずは大学レベルとなる統計検定の2級取得からスタートしていこうと思ったのが、今年の初め頃でした。

当初は、最早習ったかどうかすらも分からない知識のオンパレードで、初めて聞く様な理論や、知識ばかりだったことを覚えています。しかし、そういった中でも統計学が自身に与えてくれる驚きや発見は日々新鮮なもので、全く飽きずに学習を続けることができましたと思えます。

数学というと、どうしても「抽象的」「とっつきにくい」「難しい」「なんの役に立つのか不明」みたいなイメージが世の中一般のイメージだと思います。かくいう私も理系出身ですが、純粋数学は他の学問に比べとっつきにくい印象がありました。しかし、統計学に関しては、その様なこともなく、むしろ現在の業務でもその考えや手法は、かなり使っていますし、機械学習や統計に直接関する仕事ではないとしても、おそらくかなり広い分野で応用の効く学問だと思います。

難しい数式を一つ一つ眺めていくのは、厳しいことですが、それが示している結果は、日常の感覚と一致しているし、むしろその感覚が数式で美しく表されているのを知ると、数学が苦手な私でも思わず感動してしまいます。そういった発見を与えてくれる統計学の入り口にもなる統計検定を受けてみるのは、一つの手かと思えます。

3級

部家 翔太さん (株式会社システムサポート)

「統計検定3級で学んだことは仕事やそれ以外でも大変役立つ」

<統計検定を受験した動機>

現在データ分析の業務に携わっており、業務以外でも勉強する必要があると感じたため統計検定を受験しました。

<受験にあたっての準備>

公式の教科書と過去問題集を買って勉強しました。過去問題集をひたすら解いて、間違えた問題

又は正解していても解答の根拠が分らなかった問題は過去問題集の解説を見たり、派遣先のプロパ一社員の方に質問したりして不明な部分を理解していきました。

<受験した感想>

業務の大半がデータの基礎統計量の取得や顧客に対してデータの説明をするための資料作りなので統計検定3級で覚えたことが大変役に立っています。また3級の試験範囲の内容はデータ分析に携わってなくても知っておけばなにかと役に立つと思いましたので、今後社内のメンバーにも取得を推奨していきたいと思いました。

<今後について>

現在機械学習系の業務に携わっているため統計検定2級合格を目指しています。3級に比べて難易度が格段に上のため勉強に苦労しておりますが、なんとか11月に合格できるよう頑張りたいと思います。

<最後に>

統計検定3級の勉強は主に勤務先のビルにあるカフェでやっていたのですが、勉強中に「私も統計検定2級を受けるために勉強しています。3級頑張ってください。」と励ましてくれたイケメンの店員の方に感謝しています。彼には2級勉強にあたって参考になる書籍やHPの情報をいただいております。今その書籍やHPを見たりして2級を勉強しています。その恩に報いるためにも11月に2級合格をしたいと思っています。

統計調査士

鈴木 貴士さん（厚生労働省）

「公的統計の基本知識を体系的に獲得することができる」

厚生労働省の統計を扱う部署で民間出身者（期

間に定めがある）として仕事をしています。前職もデータに関わる仕事でしたが、公的統計に関する知識は全くありませんでした。そのため、打ち合わせに参加しても「統計法ってなんだ?」「総務省への申請って、何で総務省が出てくるんだ?」という状態で、理解できないことが多かったです。

そこで、公的統計の基本知識を体系的に得ることを目的に統計調査士試験を受験し、今回合格することができました。

出題範囲表*を見てみると、統計調査士試験は大きく3点「A. 統計の基本」「B. 公的統計調査の実務」「C. 統計の見方と利用」が範囲となっています。「A. 統計の基本」は統計の役割や統計法規が、「B. 公的統計調査の実務」は調査の仕組み、調査実務の手法、統計の公表が問われます。「C. 統計の見方と利用」は、主要な公的統計自体についてと、公的統計を用いた統計データの見方について問われます。

勉強には、立教大学社会情報教育研究センター『日本の公的統計・統計調査』、総務省政策統括官（統計基準担当）『統計実務基礎知識』、厚生労働統計協会『厚生統計テキストブック』を用いました。入手性が良いのは『日本の公的統計・統計調査』で、統計法や統計行政に詳しいのは『統計実務基礎知識』だと思います。『統計実務基礎知識』はシンフォニカ（公益財団法人統計情報研究開発センター）で購入できます。

公的統計に関する基本知識を体系的に得られる統計調査士試験は、初めて役所の統計部署で仕事をする方に向けた試験だと感じました。専門用語や考え方（の一部）が分かるようになると、業務が（少し）進めやすくなると思います。

*https://www.toukei-kentei.jp/wp-content/uploads/grade5_hani_20180731_2.pdf

6. 理事会・委員会報告（2022年2月10日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2022年2月10日（木曜日）

午後6時00分～午後7時10分

場所：東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティング ID：867 3463 7993）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名
監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者

理事：樋口知之会長，大森裕浩理事長，小池祐太（庶務），加藤昇吾（庶務），吉田靖（会計），柳原宏和（会誌編集と文），中島上智（広報），吉羽要直（大会・企画・行事），菅澤翔之助（国際），各務和彦（国際），瀬尾隆（渉外），佐藤整尚（渉外），竹内光悦（教育）
（以上13名，括弧内は役割分担）

監事：岩嶋学，川崎茂，山下智志

欠席：青嶋誠（JJSD）

第1議案 臨時委員会「多様性推進特別委員会」の設置について

大森理事長より，資料に基づき，臨時委員会「多様性推進特別委員会」を設置することが提案され，審議の結果，承認された。

第2議案 統計質保証推進協会からの委託事業について

大森理事長より，資料に基づき，統計質保証推進協会からの委託事業に関する業務委託契約書締結の提案があり，審議の結果，承認された。

第3議案 2022年度事業計画について

大森理事長より，資料に基づき，2022年度事業計画について提案があり，審議の結果，承認された。

第4議案 2022年度予算について

大森理事長より，資料に基づき，2022年度予算について提案があり，吉田会計理事により補足説明が行われた。審議の結果，一部修正の上，承認された。

第5議案 準会員制度に関する定款細則の改正について

大森理事長より，資料に基づき，次回の社員総会で準会員制度に関する定款細則の改正について諮ることが提案され，審議の結果，承認された。

第6議案 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟について

大森理事長より，資料に基づき，男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟について提案があり，審議の結果，承認された。

第7議案 和文誌の完全オンライン化について

大森理事長より，資料に基づき，和文誌の完全オンライン化について提案があり，審議の結果，承認され，社員懇談会にて報告することとなった。

第8議案 社員総会招集の件

樋口会長より，社員総会を以下の通り招集する旨が提案され，承認された。

1. 日時 2022年5月21日（土曜日）

午後1時30分から

2. 開催形式 未定（ハイブリッド形式や対面形式の場合には，東京大学本郷キャンパスを予定）

3. 会議の目的事項

(1) 定款細則の改正について

(2) 臨時委員会の設置について

(3) 社員総会における通常の審議

第9議案 会員の入退会

大森理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者が紹介され，審議の結果，承認された。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2022年2月10日（木曜日）

午後7時10分～午後8時04分

場所：東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施

Zoom（ミーティング ID：867 3463 7993）

出席：理事13名，監事3名，計16名

樋口知之会長，大森裕浩理事長，小池祐太，加藤昇吾，吉田靖，柳原宏和，中島上智，吉羽要直，菅澤翔之助，各務和彦，瀬尾隆，佐藤整尚，竹内光悦，岩嶋学（監事），川崎茂（監事），山下智志（監事）

欠席：青嶋誠

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長からの情報に基づき，大森理事長よりJJSDの編集状況について報告があった。

2. 和文誌編集委員会

柳原委員長より和文誌の編集状況について報告があった。

3. 大会委員会

吉羽委員長より，2022年度統計関連学会連合大会の第一報が発行されたことが報告された。

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より，第16回日本統計学会春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

加藤委員長より，日本統計学会が以下の学術的会合を後援することが報告された。

・第4回 WiDS Tokyo@Yokohama City University

6. 広報委員会

報告事項なし

7. 国際関係委員会

菅澤委員長より、赤池メモリアルレクチャー賞選考委員の交代について報告があった。また、来年度の統計関連学会連合大会にて、台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションを開催する予定であることが報告された。

8. 渉外委員会

樋口会長より、資料に基づき、JJSDのライセンス変更に関する契約書にサインした旨が報告された。また、佐藤委員長より、資料に基づき、今年度の科研費の執行状況について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会で開催された事業委員会での議論の内容が報告された。

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

報告事項なし

11. 統計教育委員会

竹内委員長より、以下について報告があった。

- ①第19回 統計教育の方法論ワークショップが3月18日、19日に統計数理研究所でハイブリッド開催される予定である。
- ②今年度の中高生・スポーツデータ解析コンペティションの応募が1月末に締め切れ、今後、統計教育委員会委員による審査が行われる予定である。

12. その他

大森理事長より、以下について報告があった。

- ・一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究所の早期設置に関する要望書提出について
- ・名古屋市立大学データサイエンス学部の新設に関する要望書提出について
- ・シンフォニカにおける学会誌在庫処分について
- ・日本経済学会連合の記念事業への参加見送りについて
- ・国土交通省「建設工事受注動態統計」におけるデータ書き換え問題に対する声明について

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、資料に基づき、来年度以降の日本統計学会春季集会において参加費を有料化することが提案された。審議の結果、次回以降の理事会で継続して審議することとなった。

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

中島委員長より、日本統計学会のYouTube公式チャンネルを作成することが提案され、審議の結果、承認された。

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. 質保証委員会

審議事項なし

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

審議事項なし

11. 統計教育委員会

審議事項なし

12. その他

審議事項なし

今後の予定

- ・2022年5月7日(土) 13:00 理事会：開催形式未定
- ・2022年5月21日(土) 13:30 社員総会：開催形式未定

7. 社員懇談会報告

日時：2022年3月4日(金曜日)

午後6時00分～午後7時45分

場所：東京大学本郷キャンパス 小島ホール2Fコンファレンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル懇談会として実施
Zoom (ミーティングID: 826 9559 4325)

出席者：樋口知之の会長、大森裕浩理事長

出席代議員：青嶋誠，足立浩平，岩崎学，狩野裕，鎌倉稔成，川崎茂，川崎能典，国友直人，西郷浩，坂本亘，瀬尾隆，谷崎久志，椿広計，中野純司，廣瀬慧，増田弘毅，松井知子，南美穂子，山下智志，美添泰人，渡辺美智子（以上23名）

オブザーバー：加藤昇吾（庶務），小池祐太（庶務），吉田靖（会計）

報告事項（理事会報告）

1. 臨時委員会「多様性推進特別委員会」の設置について

大森理事長より，資料に基づき，臨時委員会「多様性推進特別委員会」の設置について報告があった。

2. 統計質保証推進協会からの委託事業について

大森理事長より，資料に基づき，統計質保証推進協会からの委託事業について報告がなされた。

3. 2022年度事業計画について

大森理事長より，資料に基づき，2022年度事業計画について報告があった。

4. 2022年度予算について

吉田会計理事より，資料に基づき，2022年度予算について報告があった。

5. 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟について

大森理事長より，資料に基づき，男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟について報告があった。

6. 準会員制度に関する定款細則の改正について

大森理事長より，資料に基づき，準会員制度に関する定款細則の改正に関する現状について説明があり，次回の社員総会にて定款細則の改正について諮ることが報告された。

7. 和文誌の完全オンライン化について

大森理事長より，資料に基づき，和文誌が完全オンライン化されることについて報告があった。

8. 会員の入退会

大森理事長より，回収資料に基づき，会員の入退会について報告があった。

9. その他

特になし

報告事項（委員会報告）

1. 委員の交代・追加について

大森理事長より，資料に基づき，常設委員会における委員の交代および臨時委員会における委員の追加について報告があった。

2. 第16回春季集会について

大森理事長より，2022年3月5日（土）に慶應義塾大学三田キャンパス（遠隔でのオンライン参加も可能）において開催される第16回日本統計学会春季集会について説明がなされた。

3. 2022年度統計関連学会連合大会について

大森理事長より，2022年9月4日（日）～8日（木）に，2022年度統計関連学会連合大会が成蹊大学（予定）において開催される旨が報告された。ただし，コロナ禍の状況を確認しつつ，開催方式については現在検討中であることが説明された。

4. 日本統計学会各賞について

樋口会長より，資料に基づき，日本統計学会各賞の募集期間が2022年3月25日（金）までであることが説明された。

5. その他

特になし

報告事項（その他）

1. 国土交通省「建設工事受注動態統計」におけるデータ書き換え問題に対する声明について

大森理事長より，資料に基づき，日本統計学会の声明を作成してウェブサイトで公開するとともに，総務省統計委員会（1月26日開催）に対して送付を行ったことが報告された。

2. 今後の日程

- ・2022年5月21日（土）13：30 社員総会：開催形式未定（ハイブリッド形式や対面形式の場合には，東京大学本郷キャンパスを予定）
- ・2022年9月4日（日）～8日（木） 統計関連学会連合大会：成蹊大学（予定）

3. その他

渡辺代議員より，統計質保証推進協会との連携について提言があった。また，学会における産学連携について意見交換がなされた。

8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論

文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします。

● (1) 石口文也 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 多変量ガウス過程回帰モデルの欠測対応アルゴリズムの構築 (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) 中野寛也 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Tweedie回帰モデルの段階的パラメータ推定 (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) 細川裕太 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 無限分散回帰モデルの推定 (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) 光安将太郎 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 変量効果を用いた加速故障モデルの最尤推定 (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) Li Shuaiyu (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Estimation for degrees of freedom of Student-Levy process from high-frequency data (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) Wu Yunpei (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Random Number generation for generalized hyperbolic-type Levy processes (5) 増田弘毅 (6) 2022年2月

● (1) 相澤愛奈 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Models and measure of marginal symmetry for ordinal square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2022年3月

● (1) 宮川明大 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A measure for degree of departure from the reverse-symmetry model in nominal square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 2022年3月

● (1) 大塚隼太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An asymptotic expansion for the distribution of a distance-based discriminant function in normal populations (5) 富澤貞男, 中川智之 (6) 2022年3月

● (1) 石津直哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On symmetry and asymmetry for square contingency tables with ordered categories via underlying latent variables (5) 富澤貞男 (6) 2022

年3月

● (1) 糸洲弘 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Testing symmetry in 2×2 contingency tables with nonignorable nonresponses by parameter-identifiable graphical models (5) 田畑耕治 (6) 2022年3月

● (1) 岸村遼 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Bayesian estimation of multinomial parameters via rank information (5) 田畑耕治 (6) 2022年3月

● (1) 瀧上豪支 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) PRV measure using entropy for two-way contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2022年3月

● (1) 牧嶋孝樹 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Asymmetry plus association models for ordinal square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2022年3月

● (1) 三枝美耶 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 臨床試験の被験者登録の時間変化を考慮した試験期間の不確実性の評価 (5) 寒水孝司 (6) 2022年3月

● (1) 松田かおる子 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がん第1相試験におけるベイズ流最適区間デザインのもとでの毒性発現確率の推定法 (5) 寒水孝司 (6) 2022年3月

● (1) 松田大明 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がん臨床試験における区間打ち切りデータのもとでの平均生存時間の推定法 (5) 寒水孝司 (6) 2022年3月

● (1) 森田敦也 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 交絡の調整における変数間の非線形関係を考慮した平均処置効果の推定法 (5) 寒水孝司 (6) 2022年3月

● (1) 伊藤智也 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) A data transformation for high-dimensional data and its applications (5) 青嶋誠 (6) 2022年3月

● (1) 炭谷陽一郎 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Some extensions of the Cramer-Rao inequality derived from the escort distribution (5) 小池健一 (6) 2022年3月

● (1) 伴野創志 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Attainments of the Bayesian information bounds

for the escort distribution (5) 小池健一 (6) 2022年3月

● (1) 神藤彩子 (2) 博士 (学術) (3) 国際基督教大学 (4) 女性受刑者が犯罪に至る過程—メンタルヘルスの問題に着目して—Incarcerated Women's Pathways to Crime: Focusing on Mental Health Problems (5) 金澤雄一郎 (6) 2022年3月

● (1) 原田和治 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Statistical estimation for causal relationships under sparsity and contamination (5) 藤澤洋徳 (6) 2022年3月

● (1) 芦田悠 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Tests for Two Sub-mean Vectors with Unequal Covariance Matrices in the Cases of Complete Data and Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 菊地武生 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An Improved Likelihood Ratio for Sphericity Test Under Two-step Monotone Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 木村友哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Two Sample Test for Additional Information with Two-step Monotone Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 酒井まりな (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Testing Level Hypothesis in Profile Analysis with Unequal Covariance Matrices (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 酒井玲美 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Simultaneous Tests for Mean Vectors and Covariance Matrices with Three-step Monotone Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 森部結月 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An F Approximation for Testing the Mean Vector with Two-step Monotone Missing Data (5) 瀬尾隆 (6) 2022年3月

● (1) 吉岡裕輔 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 探索的パス解析に関する研究 (5) 松田眞一 (6) 2021年8月

● (1) 松下舞 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 多次元多標本ベルヌーイモデルにおけるダ

ネット型的手法に基づくゲートキーピング法 (5) 白石高章 (6) 2022年2月

● (1) 郷田昌稔 (2) 博士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Statistical inference for Hawkes processes (5) 吉田朋広 (6) 2022年3月

● (1) 栗崎正博 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Parameter estimation for ergodic linear stochastic differential equations from partial and discrete observations (5) 吉田朋広 (6) 2022年3月

● (1) 馬場智也 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Consistency of the Kaplan-Meier estimator of the potential survival function by using coarsened exact matching (5) 吉田朋広 (6) 2022年3月

● (1) 鈴木海舟 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Nonparametric estimation of the diffusion coefficient of a one-dimensional diffusion process using deep neural networks (5) 小池祐太 (6) 2022年3月

● (1) 深見陸 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) マルチンゲール差分列ノイズを持つノンパラメトリック回帰モデルに対するdeep neural networkを用いた適応的推定 (5) 小池祐太 (6) 2022年3月

● (1) 大泊研 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) カラーフィルター用顔料分散液のスペクトル最適化 (5) 岩山幸治 (6) 2022年3月

● (1) 岡部壮一郎 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 敵対的生成ネットワークによる表形式データ生成過程での構造的表現 (5) 齋藤邦彦 (6) 2022年3月

● (1) 長田帆貴 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 深層学習を使った雑談対話システム (5) 市川治 (6) 2022年3月

● (1) 河本剛 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ドメイン知識に依存しない異常検知モデルの比較・検討 (5) 松井秀俊 (6) 2022年3月

● (1) 佐藤晴紀 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) テレマティクスデータを用いたドライバー分類/認識モデルの構築 (5) 田中琢

真 (6) 2022年 3月

● (1) 柴田忠彦 (2) 修士 (データサイエンス)
(3) 滋賀大学 (4) コールセンターオペレーターの音声品質評価の自動化の研究 (5) 市川治 (6) 2022年 3月

● (1) 白瀧豪 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ロバストな電力需要予測に向けたモデルベース時系列クラスタリングの応用 (5) 河本薫 (6) 2022年 3月

● (1) 田中健太 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 時間共変量を含むCox回帰モデルにおけるガウス過程回帰と多重代入法の利用について (5) 杉本知之 (6) 2022年 3月

● (1) 日野佑美 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 合理的意思決定のできる企業組織とは?—累積プロスペクト理論に基づく提案— (5) 田中琢真 (6) 2022年 3月

● (1) 本庄和志 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) CNN-GRUによるハイブリッド深層学習モデルの構築と小売業界における商品の販売予測 (5) 周暁康 (6) 2022年 3月

● (1) 増井恵理子 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 高校生の価値志向が性別専攻分離に与える影響に関する分析 (5) 伊達平和 (6) 2022年 3月

● (1) 松井宏司 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 連続晶析における粒度分布遷移過程の状態空間モデルによる表現 (5) 岩山幸治 (6) 2022年 3月

● (1) 村上涼平 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 溝拘束状態におけるうず巻き

形ガスケットの圧縮特性の推定 (5) 笛田薫 (6) 2022年 3月

● (1) 盛江佳史 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 新型コロナウイルス感染予防行動の類型化とその規定要因に関する分析 (5) 伊達平和 (6) 2022年 3月

● (1) 森田息吹 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 単軸押出機におけるセンサデータ活用による押出機内部の可視化と押出変動の要因分析 (5) 杉本知之 (6) 2022年 3月

● (1) 弥谷悠二郎 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 金融機関口座入金記録分析による不正口座の検知 (5) 松井秀俊 (6) 2022年 3月

● (1) 山本優斗 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 金融ビッグデータによる所得と消費のGibrat則の検証と給付金による消費喚起効果の推定 (5) 田中琢真 (6) 2022年 3月

● (1) 馬場由羽貴 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ランダムでない欠測を含む時系列データに対する統計モデリング (5) 廣瀬慧 (6) 2022年 2月

● (1) 吉田航 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 多変量線形ガウス状態空間モデルを使った当日予測の高速化とその性質 (5) 廣瀬慧 (6) 2022年 2月

● (1) 松岡涼太郎 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) アンサンブルカルマン smoother による降水量モデルの正則化推定法 (5) 廣瀬慧 (6) 2022年 2月

9. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●高橋将宜『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』共立出版、2022年2月、3,850円 (税込)

内容紹介：本書は、Rubinの潜在的結果変数の枠組みによる統計的因果推論の数理的メカニズムとRによる数値解析を統一的にカバーしたものである。また、データの一部が観測されない欠測データの統計的因果推論も扱っている。

10. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●清水泰隆『Asymptotic Statistics in Insurance Risk Theory』Springer, 2022年1月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 本書は保険リスク理論に関する統計的推測について, 筆者独自の最新の研究をまとめている。古典的破産理論からレヴィ過程に基づく現代的破産理論について概観し, その統計推測理論を厳密に展開している。

11. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2022年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fec/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表

し、御冥福をお祈り申し上げます。

曾谷 勝義 会員

入会承認

秋山英久, 貝沼稔夫, 北村浩三, 澤村保則, 澤谷一磨, 下野祐太, 林等, 本田達也, データビズラボ(株) (敬称略)

退会承認

大川口信一, 奥村晴彦, 下平祥貴, 清家篤, 高橋康志, 高橋幸雄, 長崎政幸, 林俊彦, 兵頭義史, 水野真治, 三輪哲久, 向山健司, 渡邊優太郎, 帝人ファーマ(株) (敬称略)

現在の会員数 (2022年2月28日)

名誉会員	14名
正会員	1,394名
準会員	9名
学生会員	74名
総計	1,491名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

● 会員活動紹介 (叙勲・受章、各種受賞等)

原稿送付先：

〒186-8603

東京都国立市中2-1

一橋大学 経済研究所 中島 上智 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp